

「妖怪」見出しに着目した 怪異妖怪都市伝説関連記事収集についての調査報告

保 科 俊

1, はじめに (研究の背景 問題)

戦前期からの「妖怪」という見出しを探った研究である。様々な「怪異」や「迷信」「俗信」についての調査研究や、キャラクター化された「妖怪」について研究されているが、他にレットルはりとして、例えとして使われる「妖怪」もあろう(例えば〇〇界の「妖怪」)。また、様々なメディア上に「妖怪」と書く人々がいる。彼等彼女等は、なぜ「妖怪」と書くのだろうか。

井上円了や、不思議なモノゴトについて知り事実(or真実)を探ろうとしてきた人々であれば、「妖怪」と書くその理由は、学術的分野であれば真理を求めること、啓蒙のため等という説明がつく。研究者ではない人々はどうであろうか。

2, 目的 意義

そこで本研究では、特に明治期以降に焦点をあて、雑誌記事中にどのような見出しが掲載されているのかを把握する。このことによって、近代以降の「妖怪」や「怪異」の扱われ方・扱っている人々についての調査分析を行いたい。怪異妖怪都市伝説を扱ってきた人々はどのような人々で、どのような目的で検証等を行ってきたのかを探るのが最大の目的である。

今回は、このうち「妖怪」を題材とする。「妖怪」について抽出し、調査分析を行うことは、井上円了以降人口に膾炙したはずの「妖怪」がどのようなイメージ表象なのかを考察する材料となる。私たちは、詳細な「怪異」や「妖怪」のメカニズムを知らなくても、それほど信じてもなく興味がなくとも、または普段「怪異」や「妖怪」については何も考えていないと思っているとしても、「妖怪」やそれに類する単語を使い、消費していないだろうか。

こういった観点は、多くの学術的関心からは外れることになると思われる。しかしもし社会が、相互作用的に成り立っていて、我々は情報の送り手側の思惑や意図とは別に読書を行い、メディアに接しているとすれば、様々な情報の蓄積とは、社会、社会問題、社会構造や社会心理を考察する上で重要な内容といえないだろうか。情報の送り手側の思惑や意図と、読み手の受け手側の利用や満足とが別にあるのなら、私たちは、多くの「妖怪」に関する諸情報について精査調査分析をしない限り、近代以降の「妖怪」について理解することにはならないであろう。

また、怪異妖怪都市伝説について扱い考えてきた人々の動きを可能な範囲でまとめることは、井上円了の行った活動の意義を再考察する上で重要な情報をもたらすことになるはずである。また、現代的なジャーナリズム活動やリテラシー的意義について実証的に考える材料ともなる。

3, 方法

戦前期からの雑誌調査報告である。情報伝達上主要なメディアといえる雑誌を中心として「妖怪」がどの程度掲載されたのかを探ることを行った。『東京大学法学部附属 明治新聞雑誌文庫所蔵雑誌目次総覧』（全150巻）を材料の一つとして、見出しの確認作業を行った。また、独自に適宜確認収集できた史資料も含めた。

4, 先行研究

細かな先行研究については省略するが、伊藤慎吾・氷厘亭氷泉（編）（2021）『列伝体 妖怪学前史』では、必ずしも「学史にならない営みの歴史」等について紹介をしている。粕三平等が紹介されている。ここでは、特に筆者の立場を補強する内容と「妖怪」を扱う人々についての説明指摘に限定する。

① 奇を好み改変再生産を繰り返す

「奇を好むは人の情なり」（朝倉亀三（1911））、ニュースは交換的側面から考えることが可能で、おそらく「呪術」的側面がある。このことを新聞を題材に考察したのは小山栄三である（小山（1939））。このようにメディアと「妖怪」は親和性が高く情報としての「妖怪」を考えることができる。

また、「妖怪」は何度でも作られるが改変再生産される可能性がある。「妖怪」とはいえないが「小手姫」伝承を精査した川島は次のように述べる。「『小手姫伝説』も、近代天皇制国家の成立とともに、地元の郷土史家を中心となって改変していった伝承」、「巫女などのシャーマンが伝説を発生させたり、再生産させたりする一方では、郷土史家を典型とする文字を持つ伝承者たちも、伝説を変容させていたことが理解される」（川島秀一（2002））。そして、市川寛也（2013）が示すように「妖怪」は町おこし、アート、コンテンツとして活かされている、といえる。

② 「検証屋」として「妖怪」を扱う人々

「都市伝説」や「妖怪」について井上円了のように事実関係や、報道、科学的知見をもとに、そのメカニズムや仮説を探り、説明や検証を行う人々のことを、検証屋（荻上2011）や検証ゴッコ（三隅1991）、rumorバスターと呼び、近年特にメディア業界ではファクトチェッカーと呼ぶことが増えている。

こういった人々は1955（昭和30）年設立の日本空飛ぶ円盤研究会JFSA、井上円了先生の不思議研究会が存在していたし彼等彼女等は、様々な関心のもと怪異妖怪都市伝説を探っていた。

また、現在でもいわゆる「妖怪」について調査を行う分野はいくつかあろう。テレビ番組の「情報リサーチ分野」、各研究会学会もある。興行目的もあろう。

5, 見出し結果

「妖怪」についての見出しを抽出した。結果、戦前期からの雑誌には、22の「妖怪」記事が見受けられることがわかった。

今回は、特に「妖怪」といった見出しについて抽出を行った結果としたものの、もともとの調査のとしては、「怪異」や「俗信」「迷信」の類も含めて抽出を行う予定であった。作業はほぼ完了しているものの、見出しの文面のみで、「怪異」や「妖怪」に関する内容だと判断し抽出することは

「妖怪」見出しに着目した怪異妖怪都市伝説関連記事収集についての調査報告

膨大な量となり、さらに該当するかしらないのかどうかを判断することに悩むことが多かった。

見出しから抽出した結果が次の表である。

| 見出し | 著者 | 誌名 | 見出し | 著者 | 誌名 |
|--------------|------|-------|-------------|-------|-------|
| 井上円了の妖怪学 | 雑報 | 令知会雑誌 | 日本妖怪實譚 | 記者 | 文藝倶楽部 |
| 妖怪物語 | 西村文則 | 文藝会 | 西洋妖怪實譚 | 北雪子 | 文藝倶楽部 |
| 妖怪談 | 吃驚生 | 文園 | 妖怪の奇談 | 不明 | 日本之少年 |
| 妖怪好 | 春風子 | 小國民。 | 妖怪取調 | 不明 | 団々珍聞 |
| 妖怪好 | 不明 | 小國民。 | 妖怪を捉えて見れば | 山川菊榮 | 改造 |
| 妖怪問答 | 不明 | 小國民 | 妖怪の王統 | 鳥谷部春汀 | 写真画報 |
| 妖怪談 | 井上円了 | 日本之少年 | 妖怪談義 | 柳田國男 | 銀行研究 |
| 村民五十名妖怪退治に赴く | 不明 | 日本之少年 | 武談怪談(上) 妖怪記 | 奇聞子 | 冒険世界 |
| 妖怪と魔女(口絵) | 不明 | 人性 | 武談怪談(下) 妖怪記 | 奇聞子 | 冒険世界 |
| 日本妖怪實譚 | 記者 | 文藝倶楽部 | 武談怪談 妖怪記 | 奇聞子 | 冒険世界 |
| 西洋妖怪實譚 | 松井松葉 | 文藝倶楽部 | 奇々怪々 妖怪病室 | 髪少尉 | 冒険世界 |

※巻号等については省略し掲載している。※小見出しは除外した。

※第8巻「哲学思想編」には『哲学会雑誌』『改題 哲学雑誌』『東洋哲学会叢書』『東洋哲学』『哲学館講義録』が収録されているが、今回は外している。井上円了等の研究内容を把握することが今回の目的ではなく、他の雑誌から見出しを抽出し、他にどのような内容が掲載されていたのかを把握することに目的があるためである。

※第48巻風俗編『妖怪学雑誌』も外した。

※福来友吉「千里眼に就いて」『科学世界』第3巻11号も外している。泉鏡花といった人々の記事は、今回は除外している。

※『東洋奇術新報』除外。

※『冒険世界』には、「珍奇写真版」コーナーがあり、リストに入れるべき見出しも多かったが、今回は、見出しとみなさなかつたので外している。

※「鬼太郎」のような著者名も散見されたが、外した。「うたがひの鬼」「あまのじゃく」も外した。伝説、たたり、奇端、迷信、不思議、仙人、神といった見出しは外した。奇妙、珍、吉凶、奇は除外した。

ここでは、いくつか、他にも、「妖怪」という見出しではないが、明らかに「妖怪」に近い見出しも確認することができるのでいくつか紹介したい。

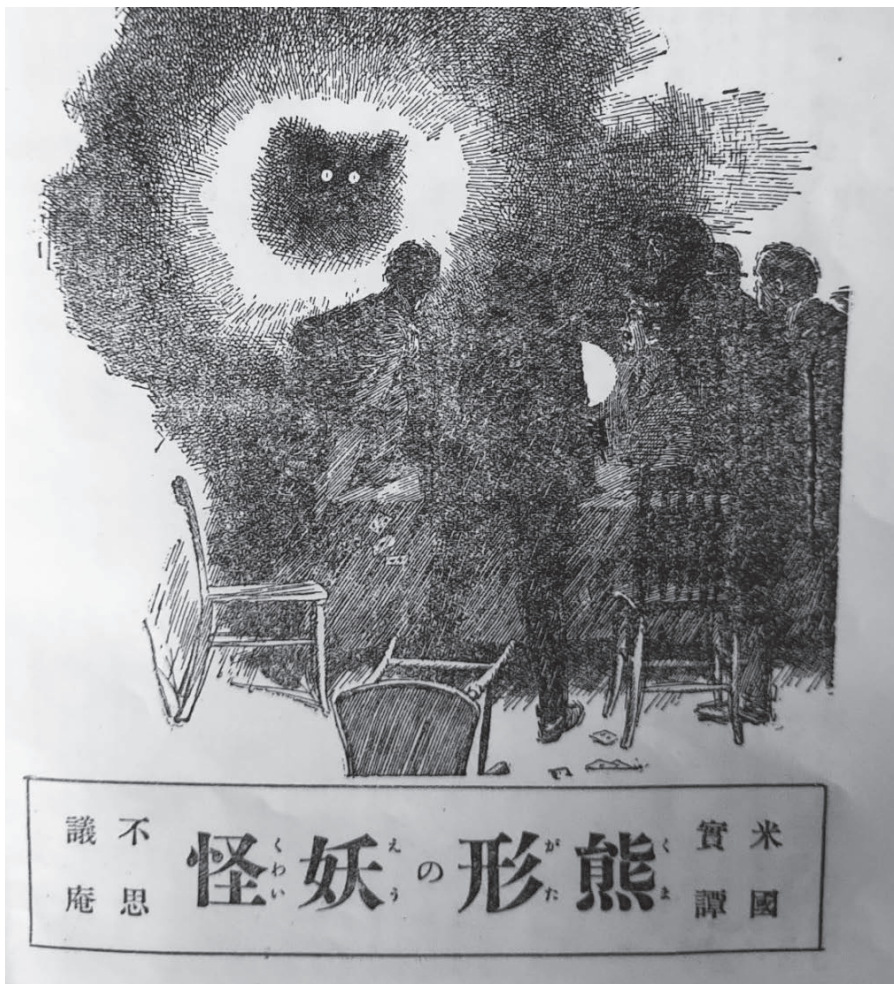
| |
|-------------------------------|
| ■「岩魚が人に化ける」香草生『飛驒史壇』 |
| ■「怪魚(お伽談)」△▲△繙案『小國民』 |
| ■「珍奇なる魚類」『小國民。』 |
| ■「人魚ノ説」『東京医事新誌』 |
| ■「人魚姫(脚本)」松居桃太郎『日本及日本人』 |
| ■「深海の妖魚」『日本之少年』 |
| ■「人魚の祠(小説)」泉鏡花『新日本』 |
| ■「珍しい人魚の話 臺灣は人魚の産地」佐藤隆三『拓殖公論』 |

6, 「妖怪」紙面紹介

残念ながら、抽出した記事の全てを入手できてはいませんが、他にも収集済である「妖怪」関連記事をいくつか紹介したい。

・不思議庵（1919）「熊形の妖怪」『冒険世界』第6巻第9号

例えば、明治以降の「妖怪」関連文献雑誌の中で、重要なのは『冒険世界』であろう。『冒険世界』は、「1908年1月、博文館が発行した青少年向け月刊総合雑誌で、」『冒険世界は、『日露戦争写真画報』の後を受けて創刊され、20年1月創刊の『新青年』に引き継がれた。」（日本児童文学学会、1988）。『冒険世界』の内容は、いわゆる様々なファンタジー的内容を含んだ冒険活劇といえる。この『冒険世界』には、いくつかの目次を見るだけでも、「怪異」や「妖怪」、「幽霊話」が書かれていることがわかる。内容については完全に精査できていない状況であるものの、例えば、1919（大正8）年の「妖怪」について確認することができる。「米国事譚 熊形の妖怪 不思議庵」とある。その内容は、アメリカオハイオ州で起こった、幽霊が出たとされる家とその噂話、検証内容について書かれている。

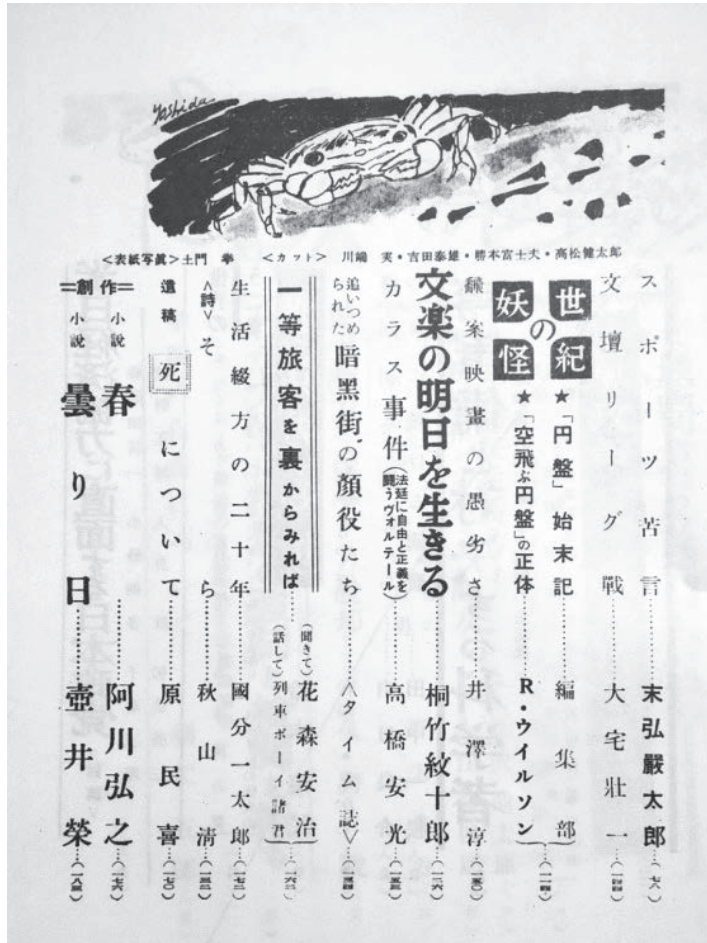


- 岸田定雄（1934）「和州伯母峰・大臺ヶ原の妖怪説話」『ドルメン』3巻10号，岡書院。



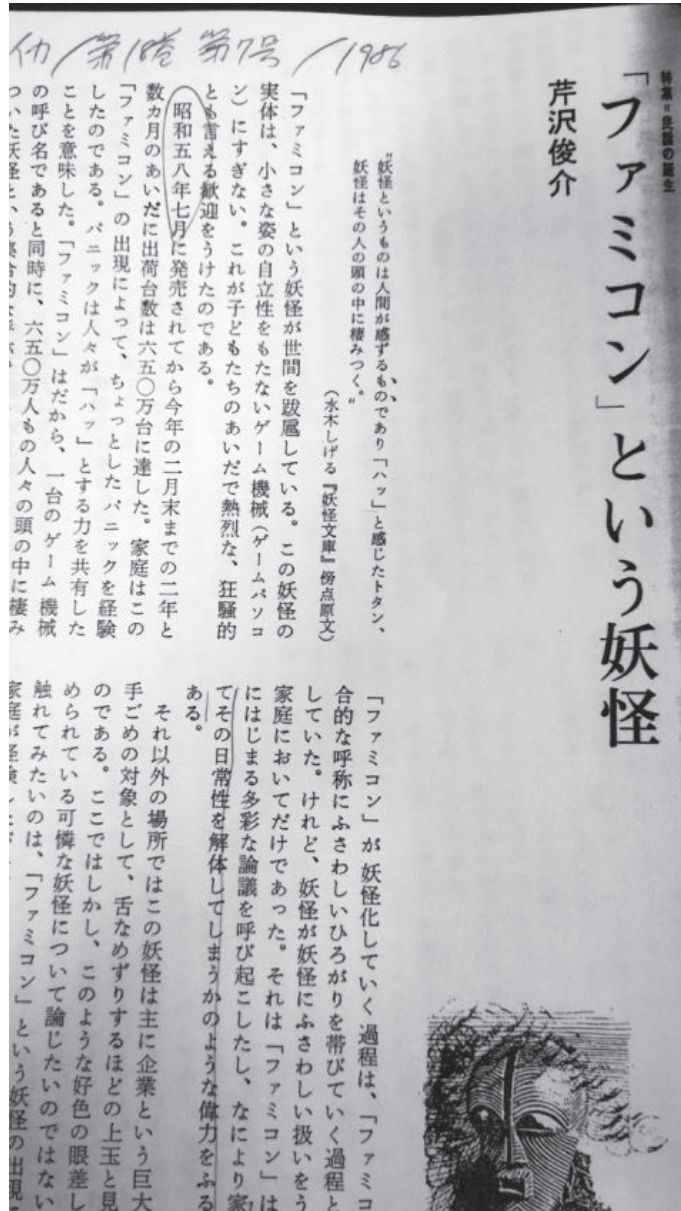
| | |
|----------------------------------|-------------|
| ドルメン 第三卷 第十號 目次 | |
| 百襲刀と宿鐵刀…………… | 小川 琢治 (1) |
| <small>雜誌叢欄</small> | |
| <small>學界彙報</small> …………… | (77 74) |
| 内蒙古人計測旅行雜記…………… | 今 村 豐 (11) |
| <small>玉黍蜀の呪力</small> …………… | 高田竹治 (39) |
| <small>神戸の俗信ニ</small> …………… | 辰井 隆 (44) |
| <small>摩羅異考</small> …………… | 學園莊止水 (16) |
| 和州伯母峰・大臺ヶ原の妖怪説話…………… | 岸 田 定雄 (48) |
| <small>山伏神樂の諸式 上</small> …………… | 本 田 安次 (4) |
| <small>墓上施設の二、三に就て</small> …………… | 淺 田 芳郎 (68) |
| <small>新島女性の鉢卷</small> …………… | 前 田 長八 (36) |
| <small>青話の行</small> …………… | |

・「世紀の妖怪」『日本評論』1951年5月号（26巻5号）



戦後の雑誌であっても、「妖怪」の見出しを見つけることができる。『日本評論』という雑誌には「世紀の妖怪」と書かれ、「『円盤』始末記」、「『空飛ぶ円盤』の正体」とある。これはいわゆるUFOについて書かれたものであろう。

- 芹沢俊介 (1986) 「ファミコンという妖怪」『ユリイカ』18巻7号, 青土社.



雑誌『ユリイカ』にも「妖怪」を見つけることができる。内容は省略する。

・『团团珍聞』



「風災」 1893 (明治26) 年

清水勲（編）（1986）からの孫引きとなるが、紹介したい。『团团珍聞』内にも「妖怪」に関連する内容を確認することができる。ただこれらは見出しに「妖怪」と書いているものではない。内容は、風刺であり、政治的内容についてである。「風災」には、「萬朝報」「報知」「朝野」「改進」等確認することができる。



「怪社の化物」1898（明治31）年



「歳入道の跋扈」1899（明治32）年

7. 考察解釈

「妖怪」に関する見出しは、「妖怪」専門誌やスポーツ新聞のような媒体にのみ掲載されているわけではないことが指摘できる。今回の結果をもとに、「怪異」や「妖怪」を取り扱う人々を類型化すれば次のようになろう。

- 政治的内容
- 風刺
- 実話系物語
- 評論

1883（明治16）年、「大熊及海坊主退治自由党の運動会」の風刺画は有名であろう。また、『団々珍聞』に描かれているように、一種の「怪異」や「妖怪」が、風刺や政治批判に使われてきたことは明らかであろう。また、人文評論で定評のあった鳥谷部春汀による「妖怪」記事があることも注目したい。このように、「妖怪」と一言にいても、見えてくる視点は多種多様である。

『ゲゲゲの鬼太郎』のような作品以外の、一見まじめな表現の場所でも何らかの形で「妖怪」についての記述はあり何か傾向があるのではないかと。創作、学術以外の「妖怪」記事の可能性もある。

以上のように、明らかに水木しげる氏が描きイメージされる「妖怪」ではないものにも「妖怪」との見出しをつけていることは、単に「怪異」や「妖怪」に対する不理解や日本語の問題以上の説明が必要なのではないだろうか。

8. 今後の課題

今回は、調査を行った雑誌見出しの分量が多すぎること等から「妖怪」に絞った。今後、今回のリスト、未発表リストをもとに可能な限り雑誌記事の中身を取集整理し、どのような内容が書かれているのか確認をしていく必要がある。今回の作業も適宜確認作業を行うことでフォローアップをしているが、一人での作業であり見落としの可能性はある。今後必要な雑誌を確認する際に見落としがないか見ていきたい。また見出しのうち判別しにくいものや、いわゆる小見出し副題に該当するようなものは除外している。雑誌目次下部にはいくつか文章が掲載されているものもあり、明らかに「怪異」「妖怪」に該当する文章があった。

また確認できた雑誌のうち、特に関連見出しが多い『団団珍聞』『冒険世界』『少国民。』について、焦点をあて、雑誌の読者数、読者への影響、雑誌を読んだ子どもが大人になりどのような長期的な影響や効果があったのかを調査分析研究をしていく必要がある。

※本研究は、東洋大学第16回アジア文化研究所年次集会発表内容に加筆修正を加えたものである。

※本研究は、2021年度東洋大学井上円了記念研究助成（The INOUE ENRYO Memorial Grant, TOYO University）研究成果の一つである。

<参考文献>

- ・朝倉亀三（1911）『本邦新聞史 全』雅俗文庫。（山本武利・有山輝雄（監修）（1995）『新聞史資料集成 第2巻〈新聞論Ⅱ〉』ゆにま書房。より）
- ・市川寛也（2013）「妖怪文化の現代的活用に関する研究」筑波大学博士論文。
- ・伊藤慎吾（編）/水厘亭水泉（編）（2021）『列伝体 妖怪学前史』勉誠出版。
- ・荻上チキ（2011）『検証 東日本大震災の流言・デマ』光文社。
- ・尾崎秀樹・小田切進・紀田順一郎（監修）（1992）『少年小説体系 第18巻 少年SF傑作集』三一書房。
- ・粕三平（1973）『お化け図絵』芳賀書店。
- ・川島秀一（2002）「巫女がつくる歴史伝承—阿武隈山地の小手姫伝説—」pp15-27, 『口承文藝研究』25, 日本口承文藝學會。
- ・岸田定雄（1934）「和州伯母峰・大臺ヶ原の妖怪説話」pp48 - 53, 『ドルメン』3巻10号, 岡書院。
- ・小山栄三（1939）「呪術と新聞」pp1 - 9, 『ドルメン』5巻7号, 岡書院。
- ・清水勲（編）（1986）『漫画雑誌博物館 明治時代編 団団珍聞2（日清日露戦争期）』国書刊行会。
- ・芹沢俊介（1986）「ファミコンという妖怪」『ユリイカ』18巻7号, 青土社。
- ・『東京大学法学部附属 明治新聞雑誌文庫所蔵雑誌目次総覧』全150巻, 大空社。
- ・日本児童文学学会（編）（1988）『児童文学事典』東京書籍。
- ・不思議庵（1913）「米国事譚 熊形の妖怪」pp98 - 107 『冒険世界』第6巻第9号, 博文館。
- ・三隅讓二（1991）「都市伝説：流言としての理論的一考察」『社会学評論』42（1）, pp17-31, 日本社会学会。